

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年1月23日（月）

2 確認箇所

Dタンクエリア

3 確認項目

Dタンクエリアの連結管の取り外し状況

4 確認結果の概要

令和3年2月13日及び令和4年3月16日の福島県沖を震源とする地震によりDタンクエリアではタンクが滑動し、タンク同士を接続している連結管の一部でメーカー推奨値を超える変位が生じた。

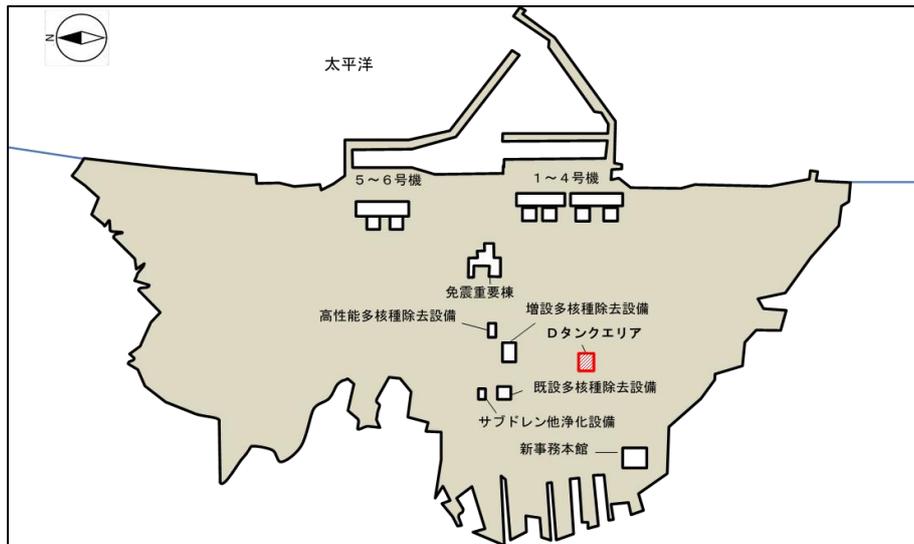
東京電力では、当該連結管については、漏えい防止の観点から、連結弁を「閉」とし、連結管を取り外した上で、連結弁に閉止フランジを取り付けた。また、濃縮廃液[※]を貯留している10基についても、変位量がメーカー推奨値を超えていないものの、地震によりタンクが滑動した経験及び濃縮廃液の性状を踏まえ、連結管の取り外し作業を実施するとしている。

今回は、連結管の取り外し作業の状況を確認した。（図1）（写真1）

（前回確認日：令和4年7月12日（連結管取り外し状況）、令和4年8月31日（地震計設置場所見直し、濃縮廃液保管状況））

- ・取り外し対象となっている連結管10本のうち、D-A1・D-A2タンク間の連結管が取り外されており、連結弁に閉止フランジが取り付けられていた。連結管が設置されていた箇所には、樹脂性のシートが掛けられていた。（写真2）
- ・取り外しがされていない連結管は樹脂性のシートで養生されていた。（写真3）
- ・D-A2・D-A3タンク間の連結管の周囲は堰が組まれていた。（写真4）
- ・現場確認時、内堰内の底面は乾いていた。（写真5）
- ・東京電力では、作業安全確保の観点から、連結管の取り外し時はタンク内の濃縮廃液をエリア内の別のタンクに移送した上で作業するとしている。

※濃縮廃液 東日本大震災当初、建屋滞留水を原子炉注水に再使用するために、淡水化装置及び蒸発濃縮装置で処理しており、蒸発濃縮装置にて処理した際に発生した濃縮した水を濃縮廃液として貯留している。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



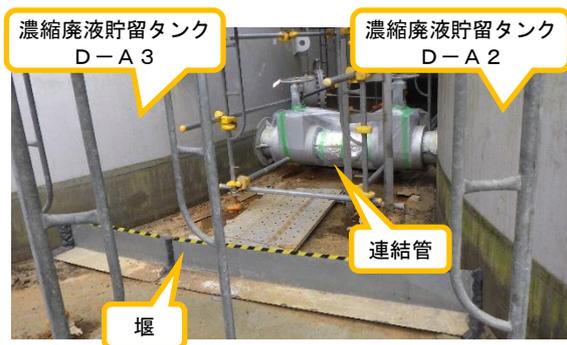
(写真1)
Dタンクエリアの概観



(写真2)
濃縮廃液貯留タンクの連結管取り外し状況



(写真3)
取り外しされていない連結管の例



(写真4)
D-A2・A3タンク間の連結管の
状況



(写真5)
Dタンクエリアの内堰内の状況の例

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。